

岐阜県未来戦略会議 テーマ別会議 「女性・子ども・魅力」 議事録（要旨）

- | |
|--------------------------------|
| ○日 時：令和8年6月8日（月） 13：30～15：05 |
| ○場 所：県庁議会棟3階 大会議室 |
| ○出席者：関係分野の委員9名（うち1名は書面による意見提出） |

<意見交換>

○ A委員

- ・ 女性が県外に流出する要因の一つに、女性管理職が少なく、家庭や職場に固定的な役割分担意識がはびこるなど、**女性が岐阜県で活躍できるイメージを持ってない**ことにある。
- ・ 若年層に対し、県内で活躍する女性のロールモデルをSNSやショート動画等を活用して発信し、女性同士が学び合い、相談できるコミュニティを形成すべき。
- ・ 「**地域資源の発掘・発信**」に関する分野は、**女性の強みを生かしやすい分野**であり、主要政策の一つに据えることが有効。
- ・ 女性よりも男性の方がAIを活用しているとの調査結果があり、キャリア格差につながらないよう、**女性をターゲットとしたAI活用支援**を進めるべき。

○ B委員

- ・ 移住者の母親からは「岐阜は子育てしやすい」との声が多い一方、県内で生まれ育った母親からそのような声は多く聞こえてこない。
- ・ 出産年齢が高齢化しており、今後は、**育児と親の介護に同時に直面する方が増えることから、そうした家庭への支援が必要**。
- ・ 家庭だけではなく「まち全体」で子育てをする環境整備が必要。**縦割りではなく、各分野が連携して子育てを支援する仕組みが必要**。

○ C委員

- ・ 若者や女性を「県外に流出させない」ための政策だけでなく、一度**県外に出た人に「岐阜に戻りたい」と思わせる政策が必要**。
- ・ 例えば、「県民パスポート（県外流出者が保有すれば特典や岐阜県に関する様々な情報を入手可）」のような、**県外に出た後も岐阜とのつながりを持ち続けられる仕組みが必要**。
- ・ 若者が定着するためには、賃金や雇用条件に加え、職場の人間関係や企業文化も重要。**若者・女性の「定着率」が高い企業を認証する制度があっても良い**。
- ・ 観光では、共通のキャラクターを使い、ストーリーを設定するなど、

県全体を「統一された世界観」で見せる工夫が必要。ストーリーの続きが見たくなるように仕掛ければ、稼ぐ観光にもつなげられる。

○ D 委員

- ・ 地域で活躍する女性は、お金を稼ぎたいというよりは、自分のキャリアを地域課題の解決に役立てたいという意欲が強い。子育て世代に加え、50～60代の起業も増えている。
- ・ 今後は、「女性の活躍」と大きく括るのではなく、「地域の女性リーダーの育成・活用」を戦略のテーマに明確に位置付けるべき。
- ・ 若者が未来像を描きやすくなるよう、遠い成功者ではなく、身近な生活圏で活躍する女性を見える化する「半径5kmのロールモデルづくり」を提案したい。

○ E 委員

- ・ 岐阜県が目指すべきは「ここでしか得られない価値を創造する県」。
- ・ 女性や若者が観光やまちづくりに主体的に参加することが、地域の新しい魅力の発見や伝え方の多様化につながる。
- ・ 大人になってからではなく、子どもが自ら岐阜の魅力を語れるようになることが、地域への誇りの醸成と将来の定着につながる。
- ・ 観光には、交流人口の拡大に留まらず、地域住民自身が地域の価値を再発見し、誇りを育む役割がある。
- ・ 今後は、観光もAIに選んでもらえる視点が重要。AI時代を見据えた情報発信や見せ方を検討すべき。

○ F 委員

- ・ 女性や若者に選ばれるためには「何があるか」だけでなく、「そこで何が起こるか」「自分がどう関われるか」を示すことが重要。
- ・ 岐阜は、完成された場所ではなく、良い意味での余白がある。自らが関わり方を選択でき、活躍できる舞台を創れる地域になり得る。
- ・ 行政が作る資料には横文字や抽象的な言葉が多く、他の自治体との違いが伝わりにくい。戦略には、誰にでも伝わる平易で具体的な言葉を使うよう工夫が必要。

○ G 委員

- ・ 女性が元気であることが、男性や子どもを含む家族全体の活力向上につながるものと認識。
- ・ 自治体、学校、商工団体、地域などが連携し、若年期から高齢期まで、あらゆる世代の女性が社会とつながり続けられるような仕組みを整え、情報発信すべき。
- ・ 人との距離が近く、個々のつながりが深いことが岐阜の魅力。一方、これらを負担に感じる女性もいることから、その両面を捉え、多様

な世代が「緩やか」につながることを「岐阜らしさ」として打ち出してはどうか。

○ H委員

- ・ 若い世代の人口流入を促進するには、子育てしやすい社会インフラの整備が不可欠。あわせて、**保育園への送迎負担の軽減に向けた公共交通の見直しや利用促進策の検討**が必要。
- ・ 少子化に伴う児童数の減少で今後、小・中・高等学校の統廃合を議論する上では、スクールバス等を含めた通学環境の整備もあわせて検討すべき。
- ・ 若年層の県外流出対策として、**県内大学への県内就職を促す情報提供や、県内定着を条件とした経済的支援の充実**が必要。また、高大連携の推進は、県内大学への進学を促す効果も期待できる。あわせて、「**中高一貫教育の推進**」も考えられるが、その導入には慎重な姿勢が必要。

○ I委員 ※欠席・書面提出

- ・ 安心して暮らし、学び、挑戦し続けられる地域づくりと、若者が地域で学び、働き、再び関わる人材循環の形成が重要。
- ・ 女性活躍では、**意思決定層における女性比率の向上や無意識のバイアスの解消**が重要。
- ・ 県内には**豊富な地域資源があるものの、統一的なストーリーとして発信できておらず、その魅力が県内外に十分伝わっていない。**